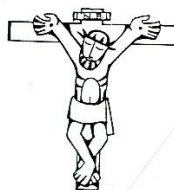


四旬節第4主日

2025年3月30日

風のように



甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

主の軍の将軍はヨシュアに言った。「あなたの足から履物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」ヨシュアはそのとおりにした。ヨシュア記5：15

だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

第2コリントの信徒への手紙5：17

そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。

ルカによる福音書15：20

【説教要旨】

イスラエルの人々は荒れ野を四十年さまよい歩き、その間にエジプトを出て来た民、戦士たちはすべて死に絶えた。ヨシュア記5:6

とあるようにモーセに連れられ出エジプトし、荒野をさまよったイスラエルの民は世代交代をして、ヨシュアに引き入れられて約束の地に踏み出すのです。それは困難極まった旅となっていきます。讚美歌に「ここも神のみ国なれば」とあります。「ここも」とは、イスラエルの民は約束の地に入ったとしても、不安定な困難極まりない戦いの旅にありました。しかし、困難極まりない旅も神の約束された地での旅でした。今起きている困難の旅のなかでも、この時、この地は、「あなたの足から履物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」のです。人の目と神の目は違うことです。どんなに困難極まりない所であっても神の約束された地は

乳と蜜とが満ちる地なのです。

一方、彼らはマナを食べることなく、土地の産物を食べるようになった、食文化の変化です。文化の大きな変化の中を生きていかなければなりませんでした。

私たちキリスト者は聖霊に導かれ神の国を目指して、この21世紀を生きます。その旅にエゴイズムの塊の大国のエゴに私たちは降りまわされる生きづらい世界、世の終わりの近いことを告げる世界を生きています。また虚構の力で世界を従わそうとしている全体主義的国家、アメリカが出現しそうです。第三次世界大戦とまでいわれる瀬戸際にいます。また生活文化は大きく変化しました。パソコンとインターネットの技術革新と普及です。マラでなく豊かな食べ物を食べている文化の大転換が起きています。しかし、未来が見通せない困難極まりない時代を生き、不安の中に私たちはいるという矛盾の中にいます。

大変化しようとする困難極まりないところを生きている民にヨシュアは割礼を施したというのです。割礼とは、ヘブライ語でブリットと言い、契約という意味です。神と契約するという意味です。アブラハムと神とが結んだアブラハム一族の繁栄と乳と蜜の満てるカナンへの定住の契約のしるしとしての割礼です。神はアブラハムに祝福の契約を結んで守るということです。私たちが真実にここも神のみ国に生きていく力は割礼、神との契約にあるということです。この契約は人が結んだのではなく神がアブラハムと結んだのです。神のみ胸の中に私たちの安全と繁栄はあるということです。

福音書の日課は「放蕩息子のたとえ話」という有名な聖書箇所です。この譬えから私たちはいろいろな使信をいただけます。どんなに道を迷い、どん底に落ち込んでも父なる神は私たちをみ胸の中に包み込んでくださるということです。

そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。

ルカによる福音書 15：20

困難極まりないという危機が、個人的にも、民族的にも、国家的にも起こりうるのです。ヨシュアに率いられたイスラエルの民も、急激な世代交代が起きて自分たち自身を変えないと民族は滅びるといふ瀬戸際、危機にいた。また自分は十分に成人として生きていけると思っ旅立ち、失敗したこの息子も危機の中にあっ、自分を変えなくてはいけなかつた。その失敗の原因をイスラエルの民は、「イスラエルの人々は荒れ野を四十年さまよい歩き、その間にエジプトを出て来た民、戦士たちはすべて死に絶えた。彼らが主の御声に聞き従わなかつたためヨシュア記5:6」、この息子は、「息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。ルカによる福音書15:21』でした。神の声に従わなかつた罪の結果です。

しかし、この罪によって、人を滅ぼそうとは神はしなかつた。この罪を神は許された。だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。これらはすべて神から出ることであつて、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。

第2コリントの信徒への手紙5:17~19

「5:2 そのとき、主はヨシュアに、火打ち石の刃物を作り、もう一度イスラエルの人々に割礼を施せ、とお命じになった。」。割礼、それは神の契約の中に抱かれることであり、新しい民族の創造の出発です。放蕩した息子を父が子として迎え入れたように、息子の新しい創造の出発です。

確かに私たちの罪の結果、危機に立たされる。しかし、ここに神は立たれる。キリストの十字架がある。キリストは十字架に立たれ、私たちの罪を負ってくださった。そして人として危機にたってください。三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レ

マ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

マルコによる福音書15:34

危機は私たち一人ではなくキリストがおられ、主は私たちに神のみ胸に抱かれよと示されました。「イエスは大声で叫ばれた。

『父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。』こう言って息を引き取られた。ルカによる福音書23:46」。十字架に私たちは結ばれ、新しく創造されます。今、世界はエゴというものが頭をもたげこの私たちの罪の結果、私たちを危機に陥らせている。しかし、ヨシュアに割礼を、私たちに十字架を与え、新しいものが生じたという時が始まっています。何度も、何度も失敗しても、神に帰る時、安心して主のみ胸に抱かれるという真実があります。今日という日を旅立ちましょう。

まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。 ルカ15：20

牧師室の小窓からのぞいてみると

世を見ると、神のいないと思われたゴルゴダの丘だ。ここで、イエスさまが十字架に架かられている。



園長・瞑想？迷走記

宗教法人立の幼稚園は、重要決定は、幼稚園運営委員会、さらに役員会の承認がいる。幼稚園の2025年運営方針を、それにとまなう人事などを承認していただいた。

人事については、何回か職員と面接し、現場主任の要望、意見を聞き、人事案を提案した。なによりも子どもらにとって、どのような配置がベストで、職員が働きやすい環境になるかを基本にした。口でいうのは容易いが実際は神経を使うか。ここで園長は力尽きる(にが笑)

日毎の糧

あなたの慈しみに生きる人は皆／あなたを見いだす間にあなたに祈ります。大水が溢れ流れるときにも／その人に及ぶことは決してありません。



詩篇32：6



「ルターの言葉から」

見よ。これは十字架の道である。これをあなたは見いだすことができない。しかしわたしは、目の見えないあなたを導く。だからあなた自身によってでもなく、人間あるいは被造物によってでもなく、わたしのことばとみ霊によって、あなたの歩むべき道を教える。あなたは自分の選んだ仕事に従事せよ。苦しみは、あなたが意図したものではなく、あなたの選択、思い、計画に反して来るものである。わたしがあなたを召すのはその所である。そこでは、あなたは聖徒でなければならない。それには時がある。あなたの主は、そこであなたのもとを訪ねる。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

罪の告白

「罪の告白をする祈りを通して個人的に体験される罪の赦しがそれである。そしてそれがヤハウエに信頼して正しく歩む者の幸いの原点になる、と本詩は教えようとしているかにみえる。」と月本照男氏（詩編の思想と信仰Ⅱ 新教出版）はこの詩編の特徴を言う。罪赦された者として私たちが生きることこそ、私たちの人生が讚美と変わるものがない。

ルターは「苦しみは、あなたが意図したものではなく、あなたの選択、思い、計画に反して来るものである。わたしがあなたを召すのはその所である。そこでは、あなたは聖徒でなければならない。それには時がある。あなたの主は、そこであなたのもとを訪ねる。」と言う。含蓄ある言葉である。これこそが罪赦されて生きていると信じる者の信仰者の姿だと思う。

祈り：主よ、あなたの赦しの慈しみによって、苦しみを負い、讚美できるものとしてください。アーメン

甘木通信

甘木聖和幼稚園が72年の時をもって、一旦、歩みを止めて、休みむ。よく、ここまでこられたと感じているのは、私だけであろうか。これで終わりという気持ちはない。何か、新しいことが起きそうだというワクワク感しかない。



「甘木聖和幼稚園の休園感謝礼拝、感謝会の写真をありがとうございました。本当に沢山の方々がお集りの会でしたね。休園に関する皆様の思いが詰まった礼拝、感謝会だったと思います。それにしましても、写真で見る皆様が笑顔であり、悲壮な休園でなく、感謝に満ちた休園のように思いました。何かの折には感謝をもって思い返すことのできる休園なのでしょうと思います。」と友人の牧師からメールをいただいた。「感謝をもって思い返す」というほど次への力となるものはないと思う。だから、私は、出席のお礼の文章にこんな一文を入れて、結びとした。

「次に向かって一歩を希望のうちに踏み出す。」

甘木の地のこの幼稚園を通して多くの生きる恵みをおいただき、「ありがとう」という気持ちと同時にこれからも「ありがとう」を返していく希望をみんながもった一瞬が、写真で見る皆の笑顔となったのもしれない。楽しい時をいただいた。



(甘木日記)土) 聖和幼稚園休園前の卒園式に、十字架を記念で贈る。みんなで感謝礼拝、感謝会の準備。これほど楽しいものはない。**日)** 聖和幼稚園の感謝礼拝、感謝会。140名を越す卒園生、保護者が来訪。嬉しい。**月)** 早朝の保育から幼稚園が始まり、辞令を渡す。新学期への準備。**火)** また、香水の匂いに過敏に反応する。やっとインターネットが回復。**水)** 早朝の保育、体調は最悪だが、2025年度幼児教育期案を作り、日常事務をする。**木)** 早朝保育を担当し、様子を見て東京に向かう。**金)** H幼稚園の管理者会議、予算理事会、評議員会の決議うけて事務処理。6月の決算理事会の準備。その後、再精密検査。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）甘木聖和幼稚園、休園前の第72回卒園式に出席。次への準備。午後から明日の休園する幼稚園の感謝礼拝、感謝会の準備。少ない教会員でみんなが協力して準備する。こういうことが一番の宝物。



日）感謝礼拝、感謝会の最高の天気日和。礼拝も卒園生、保護者の方が来られた。幼稚園の移転前の責任者のH牧師の長女、幼稚園もなかった時代のO牧師のお孫さん、幼稚園の運営に苦勞された93歳のM牧師夫人、そして長く園長されていたMO牧師夫妻と歴史がここにある。廃園でなく、休園である。少し休みすぐに新しい世界へ旅立とう。「竹田先生こんにちは。感謝礼拝 感謝会お疲れ様でした。公式ラインには集合写真も送って来



ましたので皆さんの笑顔をみました、病院にいながら私も参加させて頂いた気持ちになり幸せでした。本当にお疲れ様でした。」とか、「甘木聖和幼稚園の休園感謝礼拝、感謝会の写真をありがとうございました。本当に沢山の皆さまがお集りの

会でしたね。休園に関する皆様の思いが詰まった礼拝、感謝会だったと思います。それにしましても、写真で見る皆様が笑顔であり、悲壮な休園でなく、感謝に満ちた休園のように思いました。何かの折には感謝をもって思い返すことのできる休園なのではないかと思います。」と嬉しいお便り。夜、東京から来られているTさんのために会食と思うが出かける力がない。そこでスーパーに行き、すき焼きを作る。私たちの世代は御馳走というならすき焼き。月）7時半に幼稚園に着き。早朝保育のお迎え。社労士さんと打ち合わせ。辞令を職員に渡す。胃の調子悪く。鍼灸院へ。火）今日も早朝から幼稚園。体調の悪さか香水の匂いに過敏反応。何か落ち着きなく一日が終わる。水）早朝の保育を担当。体調は最悪。時間をみて鍼灸院へ。2025年度幼児教育期案を作り、日常事務をする。保育室の天上、壁の塗装について打ち合わせ。どこまで自分らで出来るか。気が抜けている。木）早朝保育を終わり、時間をみて東京に出かける。今回は新幹線。金）会議後、精密検査。歳のためか要観察かな。